



豊中市立東豊中小学校 学校だより

ひがしとよなか だより

豊中市立東豊中小学校 NO.5

令和8年(2026年)6月19日

校長 出口 裕子

学校教育目標

豊かな心を持ち、よく考え、自分の力で生きぬく子ども

6月20日(土)は、 東豊中小学校の60回目の 創立記念日です。



例年、創立記念日(6月20日)は学校休業日としておりますが、今年度は土曜日にあたるため、休業日とはなりません。

【東豊中小の移り変わり】

東豊中小学校は、万国博覧会が開かれる前の千里丘陵開発の頃、昭和42年(1967年)に、上野小学校から分かれて開校し、東豊中団地の誕生と共にできた豊中市で第23番目の学校です。高度成長期と共に児童数は増え続け、昭和49年(1974年)には、児童数1578名、学級数も39となりました。そこで校区変更により、第1団地の児童が新設された東豊台小学校が分離開校しました。

60年の歩みの中で築かれてきたのは、「地域とともに子どもを育てる」という伝統です。これからもそのバトンをつなぎ、未来へと歩んでいきます。

50周年記念写真



60周年記念写真



5年生 米作り体験(田植え)

6月12日(木)の5・6時間目に、5年生は運動場の端にある田んぼで田植えを行いました。

当日は、地域の田んぼボランティアの方にご指導いただき、苗の持ち方や植え方を学びました。子どもたちは、裸足で田んぼに入ると「うわ〜！」と声を上げながら、そろりそろりとバランスをとりながら泥の中を歩いていきました。慣れてくると、稲の苗を1株3〜4本、親指・人差し指・中指の3本で優しくつまみながら、ひとつひとつ丁寧に植えました。

今後は、夏に防鳥ネットを張り、秋には稲刈りや脱穀を行うなど、年間を通して米作りの体験をしていきます。こうした貴重な体験を通して、食や農業についての理解を深めていきたいと考えています。



校章の由来

校章のデザインは、井原元校長の手によるものです。東豊中で初めて建設された学校ですから「東」を強調し、まわりを豊中市章の「ト」で囲んだものです。

さらに、豊中市の木であるキンモクセイの葉を図案化して「小」をかたどり、香り高い個性豊かな子どもたちの成育を願い、昭和42年(1967年)7月20日に制定されました。



豊中市市章

図案化した豊中(トヨナカ)の頭文字「ト」を4個組み合わせ、「トヨ(豊)」ともじり、全体の形を中と見立てて「豊中」としたものです。図案文字の突起は豊中市が四方八方に発展することを象徴しています。(豊中市HPより)

プール指導が始まりました！

学年によっては絶好の…または、少し肌寒さを感じたプール開きとなりました。今年の1番乗りは3年生です！

子どもたちからよく聞く「地獄のシャワー」を浴びたあとは、潜ったり水遊びをしたりして、水慣れから始めました。水温や気温が低かったり、天気が悪かったり。逆に天気が良すぎて暑すぎたりしても、プールには入れません。

今年は1回でも多く入れるといいですね。



修学旅行トピックス

6年生 いってきます集会



6年生は6月12日から13日の2日間、東豊中小学校の代表として広島へ修学旅行に出かけます。

6月10日の朝会で6年生が行ってきます集会を催してくれました。今回の目標は「平和をまなびつつ、

最高に楽しい思い出を作ろう」です。体育館では、絵本「おりづるの旅」(PHP 研究所)の読み聞かせもあり、平和への願いや命の大切さを伝えてくれました。最後に、全校で「折り鶴」を合唱し、6年生の出発を温かく見送りました。

今回の学びが平和とは何かを一人一人が考えるきっかけになればと思います。



全校合唱

読み聞かせ



修学旅行を
写真で振り返ってみよう！



折り鶴

作詞・作曲 梅原 司平

生きていてよかった それを感じたくて
広島のみちから 私は歩いてきた
苦しみをことばに 悲しみをいかりに
きずついたからだで ここまで歩いてきた
この耳をふさいでも 聞こえる声がある
この心閉ざしても あふれる愛がある

生きていてよかった それをみつたたくて
長崎のみちから 私は歩いてきた
この胸のいたみを うたごえにたくして
焼けあとの下から ここまで歩いてきた
この耳をふさいでも 聞こえる声がある
この心閉ざしても あふれる愛がある



はばたけ折り鶴 私からあなたへ
はばたけ折り鶴 あなたから世界へ

